

IHEワークショップ in 東京

はじめに

IHE-J 運営委員会委員長
石垣武男

IHE-Jの発足 (2001.7)

- 学会、行政、工業会など各団体の連携
- ユーザ側、ベンダ側からなるオープンな組織

医療情報システム開発センタ

後援: 経済産業省(事業予算)、厚生労働省

- ◆ 医学放射線学会 (JRS)
- ◆ 放射線技術学会 (JSRT)
- ◆ 医療情報学会 (JAMI)

● IHEの趣旨に沿って、我国の臨床現場で適用可能な医療情報の利用のあり方を検討し、ユーザやベンダーに具体的な情報システム設計ガイドラインとして示す。

- ◆ 画像医療システム工業会 (JIRA)
- ◆ 保健福祉医療情報システム工業会 (JAHIS)

事務局
JIRA

I T 新改革戦略

— いつでも、どこでも、誰でもITの恩恵を実感できる社会の実現 —

平成18年1月19日

内閣府

I T 戦略本部

① 医療分野等の横断的なグランドデザインの策定

医療・健康・介護・福祉分野全般にわたり有機的かつ効果的に情報化を推進する。

② 健康情報を活用した高度な予防医療の支援と医療機関による質の高い医療の実現

2010年度までに個人の健康情報を「生涯を通じて」把握できる基盤を作り、国民が自らの健康情報を活用し、健康増進に努めることや保険者による高度な保健指導の実現を支援する。また、電子カルテ等の医療情報システムの普及を推進し、医療の質の向上、医療安全の確保、医療機関間の連携や全国的な健康情報の活用等を飛躍的に促進する

③ レセプトの完全オンライン化の実現

遅くとも2011年度当初までに、レセプトの完全オンライン化により医療保険事務のコストを大幅に削減するとともに、レセプトのデータベース化とその疫学的活用により予防医療等を推進し、国民医療費を適正化する。

④ 医療におけるより効果的なコミュニケーションの実現

遠隔医療を推進し、高度な医療を含め地域における医療水準の格差を解消するとともに、地上デジタルテレビ放送等を活用し、救急時の効果的な患者指導・相談への対応を実現する。

情報の連携・統合化と一口に言っても簡単ではない

情報交換規格の標準化だけでは情報連携は望めない

複数間の情報システムの連携が必須

情報の相互交換におけるセキュリティの担保



IHE

IHE-Jは貢献する

- 情報が支障なく送受信できる手本を示すことは目先の目標に過ぎない
- 部門間の連携にとどまらず、差し迫った医療体系の变革に対応するシステム構築に寄与する。
- 重点計画2006の基盤要素として貢献する
- 最終的な目標は医療の生産性を向上させるところにある。すなわち、限られた資源を有効に活用して目的を達成することにある

IHE-Jは成長する

IHE-Jの活動は医用画像領域にとどまるものではない。
現在内視鏡、病理、循環器部門へと展開している。

IHE-Jは限界は任意団体であるがこれを有限責任中間法人化して組織体制を確立し社会的な責任が果たす組織とする

IHEワークショップ

第1回	高知	2004年9月12日
第2回	大阪	2005年1月22日
第3回	札幌	2005年2月26日
第4回	金沢	2005年5月14日
第5回	名古屋	2005年9月 3日
第6回	小倉	2006年1月28日
第7回	仙台	2006年5月13日
第8回	東京	2006年8月 5日
第9回	京都	2007年1月予定